

## 震災を乗り越え創部60年に向けて鵠志会会員のさらなる活性化と現役との強い絆

福原 清二 (S46年理工・建築学科卒)



去る3月11日の東日本大震災の被害にあわれた鵠志会会員の皆様方、また被災地で家族や友人、知り合いをお持ちの会員の方々、心からお見舞い申し上げます。

一日も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

恩田東周前師範が生前に大地震などの災害に備え柔道の稽古を通じて「体力、気力」を養えとよく言われていた事が思い出されます。この様な時こそ合宿で同じ釜の飯を食った柔道部の仲間が助け合って困難を乗り越えられればと思っております。

そんな中にも皆様には平素より鵠志会の活動にご理解・ご協力を賜り深く感謝申し上げます。本年平成23年9月には柔道部の創部60年を迎える事となり鵠志会も創設50年を経過いたしました。つきましては来年の平成24年鵠志会総会は創部60周年及び創設50周年記念事業をより多くの参加者で盛大に開催したいと思います。しかしながら長年の課題として会の活動が一部の方々に偏り現役への支援も不十分という現実があります。ここ数年の現況を見ますと4割の方からしか出欠の返答を頂けない状況です。欠席の方々から近況報告を頂き会員様全員にお知らせする事により少しでも鵠志会に関心を持って頂く事が出来、会の活動がさらに活気あふれるものとなるよう希望しております。これらの事が会員相互のさらなる活性化の一助になり、記念事業の参加者が少しでも増え、盛大になる事を切に願っております。

ぜひこの様な時こそ足を運んで頂き旧交を温めて頂き励ましあっていきたいと思っております。

さて現役はと言いますと、一昨年に急遽した羽山前監督を引き継いだ涌井監督のお話では徐々に力を付けて来ているとの事です。又、今回の鵠志メール13号が皆様の手元に届く頃には結果は出ていると思いますが、今年は6月末の60回記念の全日本学生柔道優勝大会にオープン参加しますが全日本理工科学学生柔道優勝大会での勝利に向けて懸命な稽古を重ねているとの事です。全日本理工科学学生柔道優勝大会は50回を経て文部科学大臣杯が設けられ、優勝チームの最優秀選手には大会創始者の東京理科大学柔道部の恩田東周前師範の名前を残した「恩田東周賞」が与えられるそうです。かつての栄光を取り戻すべく尚一層の努力が望まれます。

その様にせつかく培った絆が卒業と同時に勤務地の拡散や多忙さ等から薄れていく傾向の若年層の鵠志会への参加促進も今後の課題として上げられます。鵠志会会員の皆様が鏡開き、二金会（毎月第二金曜日神楽坂道場で行われている現役とOBの合同練習）などの各種行事に参加して頂き、色々な柔道大会運営に協力しながら試合の審判員になったりして、現役との絆を深めて頂ければと思っております。

終りに鵠志会活動には財政基盤を安定させる事が急務ではありますが。鵠志会会員の皆様方には現役への更なる支援と会費の納入をお願いいたします。鵠志会活動をさらに活性化出来る様役員一同努力していきます。今後とも会員の皆様方のご理解ご協力を宜しくお願い致します。

## 木内修さんによる特別講演&羽山前監督を偲ぶコーナー

平成22年7月10日（土）に東京理科大学森戸記念館で鵠志会総会とパーティーが行われました。それに先立ち柔道場ではOB、現役の合同練習、親善試合が行われ、森戸記念館では木内修（S46年理工・建築学科卒）さんによる講演が行なわれました。「日本建築の魅力（しなやかな美しさと粘り強さ）」と

題してこの分野では日本の第一人者となられた真摯で情熱的な講演に時の経つのを忘れるほどでした。建築学科の学生はおりませんでしたが専門外にもかかわらず熱心にメモをとる現役部員の姿が印象的でした。パーティではキングレコードの「祥子」さんの歌声も響き、とりわけ最後に歌った羽山前監督へ

のメッセージを込めた「なだそうそう」は感動的でした。その後をうけて懐かしいスライドにより参加者全員で羽山前監督を偲び「思い出話」に花を咲かせ



現役・OB 合同練習

ました。現役の活動報告も行なわれ最後に会より現役に支援金が贈呈されOB、現役共肩を組んで校歌や部歌を歌って盛況のうちに幕を閉じました。



木内さんの特別講演



羽山前監督の追悼コーナー



福原理事長より助成金授与



校歌をみんなで



岩本さんによる手締め

## 現役よりのOBの皆様へ

横山昇平（野田地区部長）



### ●試合結果

昨年は涌井新監督のもと関東理工科四大学柔道対抗戦、東京理工科四大学柔道対抗戦には優勝する事が出来ました。全日本理工科学生柔道優勝大会は本戦、敗者復活戦も含め5戦しましたが入賞までいまだ及びませんでした。今年は60回記念全日本学生柔道優勝大会のオープン参加には武道館で恥ずかしくない戦いをし全日本理工科学生柔道優勝大会入賞、理工科四大学柔道対抗戦は連続優勝を目標に部員一丸となって稽古しておりますのでご支援の程宜しくお願い致します。

### ●鶴志会からの援助金の運用と現在の財政状況

長年に渡り柔道部へ多大なる財政的ご援助をして

頂き誠に有難うございます。

現在は、部員より集めている「部費」大学側からの「助成金」、そしてOBの方々から頂いた鶴志会よりの「助成金」によって運用させて頂いています。主としての支出としましては「連盟登録費」「大会参加費」とさせて頂きました。参加費を出して頂いたにも関わらず十分な試合結果、大会成績につなげることができず大変申し訳ございませんでした。今年度は60年記念大会として全日本学生柔道優勝大会がオープン大会となります。強豪校ばかりですが、応援してくださっているOBの皆さまの期待に応えることができるように、全力を尽くしていきます。

助成金の細かい内訳を示させていただきます。

収入 1/9 鏡開き 50,000、7/13 鶴志会総会 200,000、

11/26 鶴志会納会 50,000、計 300,000  
支出 4/14 東京学生柔道連盟団体登録費 19,000、  
4/14 東京学生柔道連盟指導者登録費 8,300  
4/19 東京学生柔道優勝大会参加費 30,000、  
5/29 全日本理工科学生柔道連盟登録費 10,000  
5/29 全日本理工科学生柔道優勝大会参加費  
30,000、8/4 OBさんへの借金返済 100,000  
11/4 東京学生柔道二部大会参加費 20,000、  
11/15 東京学生柔道連盟分担金 100,000、  
計 317,300

支出の上回った分は学生から集めた部費で賄いました。また、借金というのは神楽坂で過去の試合参加費を監督に立て替えて頂いております。これ以外の雑費（証明書の発行費、テーピング代等）は学校よりの助成金と部費により賄う事ができました。

野田地区では、傷んだ畳を交換するという話があったのですがこうよう会（保護者会）より助成金150万円を出してもらえらることとなり、順次張替が行われています。本年度は理工科四大学柔道対抗戦の持ち回りが秋に2度、理工科の担当であり新しい畳で気合いを入れなおして連覇を目指していきたく思いますので、今年度もOBの諸先生方の現役部員への変わらぬお力添えをよろしくお願いいたします。

#### ●一年間の部長の任期を終えて

4校戦の後に行われた現役部員の忘年会で幾田前部長よりバトンを受け取り挨拶をした時から早一年がたち、今、この一年間を振り返って様々な出来事があったように思います。

つらいこともありましたが、自分自身にとってプラスになることもありました。

自分は、中学時代から柔道部に所属しており、高校時代のブランクを経てこの理工科大柔道部に入部しました。入部当初は現在の野田3年生は自分しかおらず現在辞めてしまった薬学の二人と3人でした。それからすぐに熊田、横村と入ってきて2年時に瀧谷の入部、高橋の退学によって現在の野田の幹部の形態でこの一年間の活動を行ってきました。

初めのうちは4年以上の運動不足でスタミナもなく体重も中学時代と比べ2倍くらいになっていましたから全く動けず、当然試合にも出ることはできませんでした。さらに先輩より頼まれる仕事の量も当時の自分には多く他の1年もほとんど手伝ってくれなかったので大変だと感じていました。次第に面倒だと感じる自分が出てきだしていたところに現在の2年生が入部してきました。

最初入部してきた部員は二人いました、自分たちの代に比べると人数は半分なわけですから自分にも

できる仕事は極力手伝って少しでも負担を減らしてあげようと感じ始め、人数が少ないなりにこれから部全体でまとまっていこうとしました。若干面倒になっていた自分を見つめなおし、3年になれば自分たちも先輩たちのように上に立って後輩たちを導いていけるようにならないといけない、そんな思いから練習にも一層身を入れようとしていた矢先、2年生の10月に行われた試合中に利き手の人差し指を骨折、手術してひと月以上は絶対安静と医師に伝えられました。病院に行った二日後の部活のとき、幾田部長より羽山前監督の訃報を聞きショックを受けたのを今でもよく覚えています。同時に羽山さんがまだ監督でいらした最後の試合で優勝、せめて、そのとき試合に出ることができた自分の勝利を報告できず負けたという結果しか残せなかった自分のふがいなさに苛立ちました。

3年になり部長という役につかせて頂き、涌井監督や先生方とともにこの柔道部を新生理科大柔道部にしようかと決意したおり2年生の一人が退部したいと言ってきました。しかもその原因は自分にあると…全く、こんなにも不幸だと感じる出来事が自分の代に起こらなくてもいいのではないかとショックでした。結局その部員は言うだけ言って辞めていきました。自分は後輩のためを思ってこれまでやってきたのにそんなやり方で示されたのは怒りを通り越して自分へのあきれの気持ちかわき、同時に、こんなことでは部をまとめるなんてもってのほかだと感じ、今の自分というものが出来始めたのはこのときからでした。

自分はまだまだ歴代の部長や主将には及ばない未熟な存在ですが、やっと試合にも勝つことができるようになってきた今、この三年間、特に部長を務めたこの一年間で多くのものを手にしてきたのだと感じています。先生や先輩方から言われ、つらいながらもやりきったこと。自分はまとめ役だからと団体の全責任を負いながらいろんなプレッシャーの中でもやりきったこと。これらはまだ社会人にすらなっていない私の人生ですが、きっと素晴らしいといえるものになっていくと感じています。勝たなければいけないというプレッシャーの中、ポイント勝ちという誇れる形ではないとしても4分間戦いきった勝利は忘れることのできない思い出です。これから幹部の学年となっていく2年生や1年生もこの素晴らしい経験ができるようこれからもサポートし続けていこうと思います。

最後に、この1年間無事に部長としてつとめあげることができたのはOBの皆さま、先生方のご支援

ご指導のおかげであると感じています。いたらぬ点もあったかと思いますが、これからも現役員への変わらぬご支援をお願い致します。

●理大祭模様

野田キャンパスは模擬店として「餅屋」を開いておりました。一昨年は新型インフルエンザなどの影響で40年の歴史が途絶えましたが昨年は2年の堺を中心に上級生も協力し一団となって再開し1年のブランクも感じさせず行列出来「柔道力もち」が復活しました。



行列のできる「餅屋」の復活

一方神楽坂では「串焼屋」が繁盛しました。

須長邦彦（神楽坂地区部長）



昨年11月20日から22日の3日間かけて、神楽坂キャンパスにおいて理大祭が開かれました。私たち神楽坂柔道部は、前回の理大祭で好評だったため今回の理大祭でも串焼屋を営業させていただきました。その名のおとり串に肉を刺して焼くというシンプルな料理を販売していました。肉は牛、豚、鳥の3種類を用意し、他に飲み物としてお茶や

缶チューハイ、缶ビールを用意しました。祭典中の場所が、展示などが行われる3号館の入り口近くという好条件の場所であり、またどの団体にも負けないほどの低価格設定により、大勢のお客様が買いに来られました。価格だけでなく味のほうでも人気を得られまして、お客様の中には一日に何度も買いに来られる方や30本以上お買いになられる方、夕飯のおかず用に買っていかれる方もいらっしゃいました。

私たちは低価格で売ることを第一にしていたため、少しでも経費をかけないように努力しました。材料や消耗品は少しでも安い店を探して買いに行くのはもちろん、肉を焼くためのホットプレートは家にホットプレートがある部員に家から持ってきてもらったり、食品パックの蓋と容器部を切り離して二つ分の皿にして使用したりしました。そのおかげで3日間で4万5千円もの純利益をあげることができました。

最後に、祭典中に私たちの串焼屋に来て頂いたOBの方々に、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。祭典中、わざわざ私たちの串焼屋に来ていただき本当にありがとうございます。皆様の応援のおかげで忙しい理大祭を無事に乗り切ることができ、利益をあげることができました。本当にありがとうございます。

「理科大today」に柔道部が紹介されました。

理窓会の情報誌「理科大today」に柔道部が紹介されました。以下がその全文です。



東京理科大学柔道対抗戦

**鶴志会（柔道部OB会）**  
**会員数3世代四百数十名**  
 鶴志会は、第1部体育局柔道部卒業生（神楽坂、野田、久喜）で構成され会員相互の懇親をはかり柔道部の発展を期する事を目的としています。毎月第二・三金曜日には現役OB交流稽古、合宿等で汗を流します。東京学生柔道優勝大会と全日本理工科学生柔道優勝大会には、その参加費の資金提供等で現役の活動を支援しています。特に全日本理工科学生柔道優勝大会は昨年50回記念大会を迎え、文部科学大臣と（社）日本技術士会の後援を受けることとなり、また優勝校の優秀選手には理大前師範であり本大会の生みの親でもある「恩田東周賞」が送られることとなりました。初回から全てに参加し優勝2回、準優勝1回、3位入

賞9回を記録しています。6/27の試合の様子は「サンデー毎日」7/18号にも紹介されました。  
 平成11年から会報「鶴志メール」を毎年発行し本年4月には12号を出す運びとなりました。会の諸行事、会員情報、総会&パーティー、柔道部の戦績、偶数月の常任理事会、懇親会、ゴルフコンペ、忘年会等を詳しく報じています。その様子は鶴志会HP <http://3net.jp/kokushikai/>でもご覧になれます。  
 昨春秋、前監督が急逝し新監督の下、全日本理工科学生柔道優勝大会の前哨戦で、12月に行われた関東理工科四大学柔道対抗戦には学生も大いに奮起し見事、全勝優勝をすることができました。前監督には今春に学長からの感謝状を頂き残された家族、鶴志会員、学生共々大いに慰められたところ。会員も現在四百数十名と益々、増える傾向ですが、ネットワークを密にし「同じ釜の飯を喰った」仲間として生涯を通じて付き合っていきたいというのが会員の皆さんの本音です。  
 （鶴志会副理事長 柳川昌徳）



関東理工科四大学柔道対抗戦

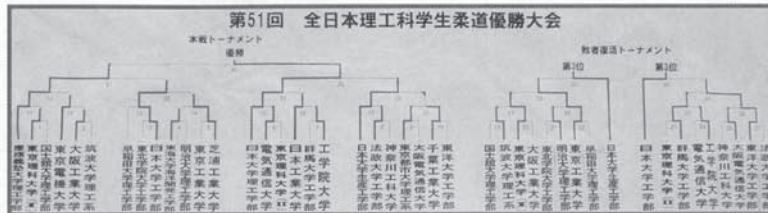
理窓会ホームページ <http://www.risokai.com/>

# 「サンデー毎日」に全日本理工科学生柔道優勝大会が掲載されました。

昨年7月18日付「サンデー毎日」カラーグラビア（1ページ）に全日本理工科学生柔道優勝大会の半世紀の歴史が掲載されました。残念ながら理科大の優勝ではありませんが恩田東周先生が唱えた文武両道の精神が高く評価されました。



第51回全日本理工科学生柔道優勝大会



CAMERA EYE

## 柔よく剛を制す。

半世紀に及ぶ歴史を刻む、理工科学生たちの熱き戦い。

### 第51回全日本理工科学生柔道優勝大会

6月27日、柔道の聖地、講道館に全国23大学・26理工系学部の柔道部が集結。第51回「全日本理工科学生柔道優勝大会」(主催・全日本理工科学生柔道連盟、後援・文部科学省、日本技術士会)が開催された。

柔道を愛する気持ちに、学部の垣根はない。しかし、理工系学部の学生たちは普段から講義や実験など過密なカリキュラムに追われ、十分な稽古量を確保することが難しい。技量面でも、強豪校には及ばないのが現状だ。こうした中、昭和35年6月、理工科大学だけの柔道大会「関東理工科学生柔道優勝大会」がスタートする。

以来、半世紀にわたって絶えることなく続けられてきたが、その道のりは決して平坦なものではなかった。経済的危機にも何度となく直面したが、官庁や企業などで役職に就くOBの数も増え、賛助支援を受けるなどして苦境を乗り越えていく。今大会からは文部科学大臣杯に加え、社団法人日本技術士会の後援を受けることになった。

大会会長を務める元東京理科大学理事・事務局長で、全日本理工科学生柔道連盟会長の並木榮一氏は「50年に及ぶ大会の歴史はまさに講道館精神そのもの。『勝てばよい』ということ、強い道であってはならない」という理念を踏襲しつつ、科学技術創造立国を支える若者たちの絆を深める場として盛り上げていきたい」と意気込みを語る。



## 叙勲に対してのお祝い感謝

鈴木 隆雄 (S36年理・物理学科卒)

東京理科大学同窓会誌「理窓」2010年4月号に鈴木隆雄さんの受章の記事が掲載されました。鶴志会としてささやかなお祝いの品を納めさせて頂きましたのでご報告させて頂きます。

昨年、鶴志会の皆様から私の叙勲に対してお祝いをいただき有り難うございました。実は平成21年の秋の叙勲で、瑞寶小綬章(ずいほうしょうじゅしょう)を授与され1年が過ぎておりましたが、鶴志会として祝意を示したいとの御連絡を理事の柳川さんから頂き、皆さんのご厚意により造幣局製のお祝いの品を賜りました。

私自身、叙勲には縁がないと思っておりましてので、叙勲される前に以前勤めておりました警察庁から、叙勲するからという知らせを貰い、皇居に行くことになるから心づもりをしておくように言われた時は、慌てて私の着てゆくものや家内の着る物は何かを問い合わせたりして準備をしました。

さて毎年、春と秋に叙勲されますが、勲章には2種類あって、旭日章と瑞寶章があり、それぞれの章には上から大綬章、重光章、中綬章、小綬章、双光章、単光章の6段階に分かれています。私の頂いた章は、6段階の上から4番目の小綬章です。

叙勲される人数は、春秋それぞれおよそ4,000人余りです。受章者はそれぞれの関係のある役所から指定された場所に集まり、バスで皇居に参ります。私も他の受章者と一緒に皇居に行き、皇居の「春秋の間」で陛下からのお祝いのお言葉を頂き、記念写

真撮影をして頂きました。

叙勲の理由は、犯罪捜査における鑑識科学技術の向上に貢献したということです。私が警察に入った昭和30年代には、鑑識

の仕事は、捜査を支える裏方の仕事で、表舞台には出ず、日の目を見ることはあまりありませんでした。当時は、犯人が逮捕されると表彰されるのは捜査担当者が多く、鑑識活動に従事している技術者が表彰される事は少なかったです。しかし、個人の人権に関する関心が高まるにつれ、証拠として物的証拠の重要性が高まり、科学的に証明された証拠が提出されないと裁判で有罪にならない例が多くなりました。容疑者の自白や目撃証言だけでは、有罪とならないことから、昔からあった指紋はもちろん、血液型、DNA、画像、音声など様々なジャンルの科学的な証拠が重要な役割を果たすことになり、科学警察研究所も注目を浴び、テレビドラマで科捜研(各都道府県にある)が登場することになりました。私も現職から離れて11年になりますが、現在も鑑識の仕事のお手伝いをし、鑑定の仕事をしておりますが、年々需要が高まり私の仕事分野でも、もっと多くの後継者を育てなければならぬと感じております。



## 大相撲雑感 ツイッター

三浦 拓夫 (S45年薬・薬学科卒)



OBなのに現役より強かった頃の三浦さん

岩本和也さん(S33年理学部物理学科卒)からのペンリレーとして鶴志会きっての「粹人」!?!とされています三浦拓夫さんが投稿して下さいました。

柔道は武道だが相撲は神事、柔道は国技で無いのに相撲はなぜ国技なの? 「いい質問ですね。」など今回の八百長事件で色々と考えられた方も多いと思いますが、これは渦中の2月の時点のやりとりです。今回は皆さんからの投稿が多くスペースに限りがあった事や報道コードの関係で掲載できなかった部分については直接、三浦さんにお聞きになって下さい。

では…これは大相撲大好きな三浦が親友T氏に送信したメールの中から大相撲に関する内容を抜粋したものです。…

平成23年1月21日

大相撲初場所も13日目、俺は今日で8日間、国技館に通っています。それも朝8時から…三段目「誇山」今日で引退、残念ながら●。ご苦労サンでした。幕下での春日錦×普天王どっちもガンバレ。普天王の○。偶然、出口で春日錦にバツタリ、「ご苦労さまでした。」と握手、手デカ!!、そういえばこの前の朝稽古元気なかつたナア…。

1月23日

千秋楽、峰崎部屋の打ち上げに参加。何といても序二段「胤丸」が6○1●は凄い。間違いなく三段目に復帰。よかった。よかった。三段目「赤峰」は家賃が高すぎたとみえて大負け。ぎりぎり三段目に残れる模様、頑張れ……。

1月31日

大相撲三月場所限りでNHK、BS中継打ち切りと発表された。地上とBS両方に国会中継放送するくらいなら大相撲BS午後1時から続けて欲しいのだ。NHKは国技を何と心得ているのか……。

2月3日

しかし何ですなあ、別件で押収した携帯、しかもわざわざ消去したもので復元して文科省に報告したのは人権問題にはならないの？八百長そのものは犯罪ではないらしいし、どこかおかしくない？放駒理事長「八百長(故意による無気力相撲)は今に始まったもので過去には一切無かった」と……。メールを使った八百長は最近のものかも知れないけど……。

お相撲さんは清廉潔白じゃなければならない…スポーツマンシップにのっかって……

テレビのコメンテーターが得意そうに言っていた。果たして大相撲ってスポーツなの？

あれは昔から「神事」ですぞ。だいたいアナログで灰色なものなんじゃないの。マスコミもコメンテーターもここぞとばかり正義ぶっている事の方が滑稽だと思う今日この頃です。

あうんの呼吸にデジタルは似合わないって…＝「八百長に証拠を残す馬鹿な奴」…。

2月5日

春場所中止らしい。全部膿を出せ!!これが産みの苦しみ。灰色良しとして新しい道を探すのもいいねえ。それが国技でもいいんじゃないの？賢い事が正しい様な風潮って本当に正しい事なのかなあ?? 原理原則、原理主義っていつでも正しいのかなあ？

2月6日

例えばです…。学校に泥棒が入った。内部犯行が疑われ先生達の携帯が押収された。その結果数人の先生

が窃盗容疑で捕まった。その捜査段階で消去されていたはずのメールが復元され先生達の間で数組の不倫が疑われるメールが発覚した。そこで警察は文科省に報告した。当該の教育委員会が真相究明に立ち上がった。「教育者が不倫などあり得ないと」…。現役の校長はじめ先生達は一齐に「一度も不倫などした事はありません。私達は教育者なのですから」……。でも正直で気の弱い先生が「俺達やちまったヨ、あの先生もこの校長もやってると思うヨ、だってやり方は校長先生や教育委員会の人達から教わったんだから…」……

2月7日

先日の学校の事件で一番悪いのは誰でしょうか？

①別件で報告した警察。②新聞に話した文科省。③こんな事初めてと調査に乗り出した教育委員会。④不倫の仕方を教えた校長。⑤最初に泥棒をした先生。⑥教育者でありながら不倫をした先生。⑦消去できるはずの携帯電話を売っている携帯の販売会社。⑧不倫はいけない事といって騒いでいる国民。⑨視聴率がとれると喜んで騒いでいるマスコミ。⑩教育者に不倫などあるはずが無いと思ってコメントしている知識人の様な人。

さてあなたは……

志ん生落語に「火焰太鼓」ってえのがありまして馬鹿な道具屋がきったねえ古い太鼓を仕入れて来た。それを見た女将サン「随分汚いねえ、埃だらけじゃないか！埃はたいたら太鼓なくなっちゃうヨ」「馬鹿野郎、これは埃じゃねえてヨ、時代がついてるんでえ……」。大相撲から膿を全部出したら大相撲がなくなっちゃうかも……。

ここんところが今の私の心配事のひとつです……。お後がよろしいようで。

## 若手ペンリレー 秋野です。

秋野 貴志 (H19年理・応用物理科卒)



鶴志会会員の皆様、現役部員の皆様如何お過ごしでしょうか。平成17年度に神楽坂地区の部長を務めさせていただきました秋野です。この度、同期の岩堀君からペンリレーのバトンを受け取りまして一筆書かせていただきます。

私が、部長を務めさせていただいた平成17年度は、故羽山監督による新体制が発足した年でした。風の便りで、羽山さんはかつて、「鬼の羽山」と呼ばれていたことを耳にしておりましたが、私の目には温厚な人に映っていました。確かに、重量級の部員に対しては厳しかったのかもしれませんが。気の抜いた練習をしているとよく蹴りが飛んでいましたから

(笑)。当時の神楽坂地区は、部員はそれほど多くいませんでしたが、重量級の部員の割合が多く、1つ下の坂本君、小林君、2つ下の竹本君、曾根君などは、練習中何度も蹴られた経験があるのではないのでしょうか。柔道では、柔よく剛を制すと言われますが、やはり恵まれた体格は武器でありますので、全日本理工科学生柔道優勝大会を始めとする試合で上位を目指すために、彼らに一段とレベルアップしてもらうための愛の鞭だったのだと思います。もちろん、彼らもその事を理解していたでしょう。羽山さんの監督就任時、1年生だった部員が卒業して行き、また心機一転、新たにチャレンジしようと考えていたこともあったのかと思いますが、突然の訃報、本



## 編集後記

今回も皆様より多数の原稿を頂きまして誠に有難うございました。

編集を始めた頃に大相撲の八百長問題、最後の段階で東日本大震災があり内容についても変更を加えさせて頂きました。政治、経済の閉塞感に加え大震災とトリプルパンチとなっておりますがこの様な時こそ共に汗を流した同胞が連絡を取り合って協力する事も大切な事かと思われまます。創部60周年、鶴志会創設50周年を契機にぜひ鶴志会にもご連絡を頂ければ幸いです。

皆様への原稿依頼に付きまして『ペンリレー』という方式をとらせて頂いております。原稿をリレー形式（最初に依頼した方から次の方に確実にバトンタッチして頂く。）で出して頂く事となりましたので前任者から依頼が有りましたらご協力宜しくお願い致します。

これからも皆様の情報交換の媒体としてご意見やご指導を頂きより良い会報となる様努力して参りたいと思っております。皆様の近況や原稿を下記までお送り下さいます様お願い致します。又、掲載広告に多数応募頂きまして誠に有難うございました。

2012年度版鶴志メールに掲載する広告を募集中です。（特に創部60年記念号となりますのでご協力宜しくお願い致します。）

※皆様のご近況や慶弔などの情報が有りましたらご連絡下さい。

鶴志会ホームページにアクセスしよう！！

URL <http://3net.jp/kokushikai/>

ホームページをお持ちの方はリンクできます。

ちなみに「祥子」さんのホームページは

URL <http://3net.jp/shoko/index.html>

鶴志メール編集委員会 柳川 昌徳

(S49年 理工・建築学科卒)

TEL. 04-7134-0486

FAX. 04-7134-0487

E-mail [mail@sho2000.net](mailto:mail@sho2000.net)

### 明けましておめでとうございます



香港で3年、蘇州で3年、昨年万博開幕の頃上海へ引っ越ししました。中華の食いすぎ？昨年は3ケタに接近、今年もダイエットを誓いました。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

上田克己

携帯電話: +86-13818987239

Eメール: [ueda@jbcityplaza.com](mailto:ueda@jbcityplaza.com); [kats\\_ueda@hotmail.com](mailto:kats_ueda@hotmail.com);

上田克己（S46年 工学部・建築学科卒）さんより上海からの年賀状が届きました。

今回ペンリレーに協力して下さった三浦さんが提唱する歴代の柔道の強かった人の一人（他には古川、森、岩田、羽山の諸氏）で文系の大学からも得意の体落として一本をとられた記憶があります。



日本人の心に響く尺八、やりませんか。  
ストレスも解消し、リタイヤー後も充実します。

日本尺八連盟 竹師大師範

古川 韶山(喜代志)(S34年理・化学科卒)

野田市みずき2-17-4 電話04-7124-5910

無

杉原 敬治 (S35年理・物理学科卒)

ブラジリアン柔術・総合格闘技

RBアカデミー

こども柔道&柔術教室

〒225-0024横浜市青葉区市ヶ尾町1169-B1 TEL: 045-972-5422

花輪裕樹 山崎洋一 (H15・16工・機械科卒)

相続プラザ小田原行政書士中條尚事務所  
中條 尚 (S58年・理工・電気工学科卒)

相続に関する事ご相談ください。

神奈川県小田原市上新田21 TEL・FAX0465-45-0399

URL <http://www.souzoku-s.com>

鵜志会元理事長

熊木 重次 (S35年理・化学科卒)

鵜志会理事長

福原 清二 (S46年理工・建築学科卒)

株式会社 鈴木法科学鑑定研究所

鈴木 隆雄 (S36年理・物理学科卒)

TEL : 045-361-4311

URL : <http://houkagaku.co.jp>

望月 哲夫 (S46年理・物理学科卒)

森 俊幸 (S43年工・工業化学科卒)

総務省 一般第二種電気通信事業者

Web Design Internet Mail Order  
PC System Hosting

**3Net**

一般/通販ホームページ作成 財務会計/販売/在庫管理システム構築  
ホスティング 見積無料(低予算での導入が可能です)

代表 小川 雅章 (S50年理工・経営工学科卒)

〒250-0013 神奈川県小田原市南町3-2-35

TEL0465-22-4613 FAX0465-22-4702

E-mail : [info@3net.jp](mailto:info@3net.jp) URL : <http://3net.jp/>

坂元 充 (S44年工・電気工学科卒)

鹿児島県日置市在住



SHIBATA

柴田建材株式会社

MATERIALS FOR THE FUTURE

柴田 昇 (S51年理工・経営工学科卒)

〒424 清水市万世町1-3-10

TEL0543-53-0151, FAX0543-52-9026



建築設計・監理/宅地開発事業

有限会社 門松廣司建築研究所

〒250-0862 神奈川県小田原市成田 468-3

TEL 0465(36)5388 E-mail : [info@kadomatsu.co.jp](mailto:info@kadomatsu.co.jp)  
URL <http://www.kadomatsu.co.jp/>

門松廣司 (昭和51年理工・建築学科卒)

『住まい』に関するお悩みを解決します。

新築から耐震診断、改修工事まで建物のことなら何でもご相談下さい。



東京短資株 箱根保養所

一級建築士事務所 **しょう 昌 設計**

所長 柳川 昌徳

(S49年理工・建築学科卒)

TEL 04-7134-0486 URL <http://sho2000.net>

Raymax

CCTV レンズの開発・製造・販売  
既存の概念にとらわれない製品開発をもっとに!

より安全に、良い環境づくりに、貢献しています



型式 RHM50Z1040MP  
50×ズームレンズ  
焦点距離 10-500mm  
絞り範囲 F 4-360  
重量 約3.1kg

レンズの設計・製造等の開発及び特注品等も承ります。

レイマックス株式会社

代表取締役社長 川口 勲 (S39年理・物理学科卒)

〒229-0034 神奈川県相模原市共和4-13-1 フェスト淵野辺 2 F

TEL : 042-754-4671 FAX : 042-754-4673

<http://www.raymax.co.jp>

柔道部のみなさんへ! 新型水虫菌などの対策に!

**トンス RAQ**

日本醗酵飼料株式会社

代表取締役 鈴木 幹久

(S38年 理・化学科卒・暁星高校卒)

鵜志会 相談役

理窓会 代議員

理窓会 神奈川支部 支部長

〒210-0022 川崎市川崎区池田1-5-4

TEL 044-244-4334 FAX 044-245-1944

E-mail [suzuki@n-hakko.com](mailto:suzuki@n-hakko.com)

トンスラック発売元 : 株式会社 モトス

<http://www.n-hakko.com/tonzraq/>

